平成三十年度　京都府公立高等学校入学者選抜

前期選抜学力検査

共通学力検査

国　語

解答上の注意

1　「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
2　問題は、この冊子の中の**1～6ページ**にあります。
3　答案用紙には、**受付番号**を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
4　答案用紙の**答の欄**に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
5　答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある**【答の番号】**と、答案用紙の**【答の番号】**とが一致するように注意しなさい。
6　答えを記号で選ぶときは、答案用紙の**答の欄**の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
7　答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
8　**字数制限がある場合は、句読点や符号なども一字に数えなさい。**
9　答えの書き方について、次の**解答例**を見て間違いのないようにしなさい。

解答例

一　火曜日の翌日は何曜日か、**漢字一字**で書け。……**答の番号【1】**

二　次の問い**(1)**・**(2)**に答えよ。

(1)　北と反対の方角として最も適当なものを、次の**(ア)**～**(ウ)**から一つ選べ。
(ア)　東　**(イ)**　西　**(ウ)**　南　……**答の番号【2】**

(2)　奇数を、次の**(ア)**～**(オ)**からすべて選べ。
(ア)　1　**(イ)**　2　**(ウ)**　3
(エ)　4　**(オ)**　5　……**答の番号【3】**

問題番号	答の番号	答の欄	採点欄
一	【1】	水曜日	【1】
二 (1)	【2】	ア　イ　ウ	【2】
二 (2)	【3】	ア　イ　ウ　エ　オ	【3】

共通学力検査	
国　語	
受付番号	
123456	
得　点	

一　次の文章を読み、問い（1）～（8）に答えよ。（18点）

（1 ～ 9 は、各段落の番号を示したものである。）

1　『おくのほそ道』は紀行文と呼ばれることがよくあるが、決して紀行文ではなく、事実の記録ではない。題名にしても、小説だか、歌集だか、なんだか分からない名をつけている。「*みちのく紀行」などとは命名しないのだ。芭蕉は、二日分の事柄を一日にまとめて書いたり、別々の場所にあるものをひとまとめに書いたりしている。旅の苦労なども*曾良の日記と照らし合わせてみる[a]と大きく違っていることが多い。

2　［①］、『おくのほそ道』の中に描かれた主人公と、作者の芭蕉とには実際の行動にずれがある。こうした事実の変更は、芭蕉の風雅に臨む[b]姿勢を主人公に投影させ、その姿勢がより鮮明になるよう表現しているからだ。事実は変更されていても、風雅を追求する芭蕉の精神の真実は主人公の上に表現されているのである。この例を一つ具体的に見てみよう。

3　『おくのほそ道』を読んでいて、前半部で特に目につくことは、*歌枕を巡り、古人の心に接するということに、主人公がきわめて熱心だということである。主人公は、遊行柳、白河の関、安積沼、もぢ摺り石、武隈の松、壺碑、末の松山などを実に意欲的に見て回っている。

4　こうした努力によって、『おくのほそ道』の主人公は、古人がどのような素材からどのような作品を作り出したのかという、[c]古人の心に触れる体験を繰り返すのだ。この、古人の心に触れようとする努力はたいへんなもので、安積沼を例に取れば、次のように示されている。

*等窮が宅を出て五里計、*檜皮の宿を離れて*あさか山有。路より近し。此あたり沼多し。かつみ刈比もやや近うなれば、いづれの草を花かつみとは云ぞと、人々に尋侍れども、*更知人なし。沼を尋、人にとひ、「かつみ　かつみ」と尋ありきて、日は山の端に　かかりぬ。*二本松より右に*きれて、*黒塚の岩屋一見し、福島に宿る。

5　かつみは、『*古今集』に「みちのくのあさかの沼の花かつみかつ見る人に恋ひやわたらん」（よみ人しらず）と詠まれている植物である。［②］、平安時代に*藤原実方が陸奥守として赴任し、五月五日に軒に*菖蒲を挿すことを命じたところ、この地方には菖蒲がないということで、それでは菖蒲を*葺く代わりに安積の沼の花かつみを葺けと命じたという逸話もある植物である。芭蕉はそのかつみがどんなものか知りたかったのだが、もう分からなくなっていたのだ。そこで、かつみを探し求めて、「日は山の端にかか」るまでこの辺りにいたというのである。風雅の道を極めようとする姿勢がいかに[d]真摯なものであるかがここに示されている。

【下へつづく】

6　が、実はここには[e]虚構があり、安積で日が山の端にかかってから福島まで行くことは無理である。安積沼から福島までは四〇キロ近くあり、とうてい日が暮れてから歩ける距離ではない。ましてや途中で*奥州街道から逸れて、黒塚の岩屋を見物するなどということはできない。

7　しかも、曾良の日記には、この日のことを「福島へ到テ宿ス。日未少シ残ル。宿キレイ也」と記されている。福島に着いたとき、まだ陽が残っていたのである。

8　福島に着いたときまだ明るかったということは、当然、安積沼で「日は山の端にかか」ることはなかった。それなのに、なぜ「『かつみかつみ』と尋ありきて、日は山の端にかかりぬ」と書いたかといえば、これは風雅を求める芭蕉の気持ちの強さを表現するための文学的表現なのだ。

9　つまり、この一例でも分かるように、『おくのほそ道』では、事実は変更されることもあるが、それは風雅を求める芭蕉の心の真実が作中の登場人物の上に投影されて語られているということなのである。

（大輪靖宏「なぜ芭蕉は至高の俳人なのか」による……一部省略がある）

注

*みちのく…陸奥国。現在の青森・岩手・宮城・福島の各県と秋田県の一部。
*曾良…『おくのほそ道』の旅に随行した俳人で、芭蕉の弟子。
*歌枕…昔から和歌に詠まれてきた名所・旧跡。その後の「遊行柳、白河の関、安積沼、もぢ摺り石、武隈の松、壺碑、末の松山」は歌枕や歌枕に関わるもの。
*等窮…芭蕉と古くから交流があった俳人。　*檜皮の宿…福島県にあった宿場町。
*あさか山…福島県にある山。歌枕。　*更…全く。
*二本松…現在の福島県二本松市。　*きれて…曲がって。
*黒塚の岩屋…福島県にある和歌や能に登場する旧跡。
*古今集…古今和歌集。　*藤原実方…歌人。　*陸奥守…陸奥国の国司。
*菖蒲…五月五日に飾る風習のある植物。　*葺く…草木などを軒に挿して飾る。
*奥州街道…五街道の一つ。『おくのほそ道』の舞台の一つとなった街道。

（1）本文中の[a]みる の活用の種類を、次のⅠ群（ア）～（ウ）から一つ選べ。また、[a]みる と同じ活用の種類である動詞を、後のⅡ群（カ）～（サ）からすべて選べ。……答の番号【1】

Ⅰ群
（ア）五段活用　（イ）上一段活用　（ウ）下一段活用

Ⅱ群
（カ）委ねる　（キ）告げる　（ク）咲く
（ケ）煮る　（コ）勉強する　（サ）朽ちる

(2) 本文中の [①]・[②] に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……答の番号【2】

(ア) ① したがって　② また　(イ) ① しかし　② さらに
(ウ) ① それなのに　② むしろ　(エ) ① よって　② だが

(3) 本文中の b臨む と d真摯 の漢字の部分の読みをそれぞれ**平仮名**で書け。……答の番号【3】

(4) 本文中の c古人の心に触れる体験 とはどのような体験か、最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……答の番号【4】

(ア) 新たな歌枕となる名所を発見するために、古人がどのような素材から作品を作ったのかを追求するという体験。
(イ) 古人が作品の素材とした場所を巡ることによって、古人が生きた時代の様子を正確に感じとるという体験。
(ウ) 花かつみを題材にした作品を作るために、歌の素材となったものを実際に見て回るという体験。
(エ) 作品に詠まれた名所や旧跡を実際に訪れて、作品を生んだ古人の感性を想像するという体験。

(5) 本文中の（〰〰）で示されたもののうち、現代仮名遣いで書いた場合とは**異なる**書き表し方を含んでいるものはどれか、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……答の番号【5】

(ア) 近し　(イ) 人にとひ　(ウ) 日は山の端に　(エ) かかりぬ

(6) 本文中の e虚構 について述べた文として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……答の番号【6】

(ア) 曾良の日記には、かつみを探さず檜皮の宿を離れたとあるが、『おくのほそ道』には、夕方に安積沼を出発し、福島を見学したとある。
(イ) 曾良の日記には、福島に到着したときまだ明るかったとあるが、『おくのほそ道』には、夜になってから二本松を見学したとある。
(ウ) 曾良の日記には、明るいうちに宿に着いたとあるが、『おくのほそ道』には、安積沼周辺に夕方までいて、その後に黒塚の岩屋も見たとある。
(エ) 曾良の日記には、日が山の端にかかったときかつみを探すのをやめたとあるが、『おくのほそ道』には、夜までかつみを探したとある。

(7) 下段の会話文は、京平さんと葉子さんが本文を学習した後、本文について話し合ったものの一部である。これを読み、下段の問い㈠～㈢に答えよ。

京平　本文には、『おくのほそ道』はただ旅の様子をつづったものではないということが書かれていたね。それはつまり、『おくのほそ道』の主人公の行動と、芭蕉の [A] ということだね。
葉子　うん、芭蕉が『おくのほそ道』をそのように書いたのはなぜかな。
京平　本文をふまえると、芭蕉にとっては [B] よりも重要なことがあったと考えられるね。
葉子　そうか、『おくのほそ道』の主人公の行動と、芭蕉の [A] けれども、それは芭蕉の [C] 投影させた結果だということだね。

㈠ 会話文中の [A] に入る最も適当な表現を、本文中から**十一字**で抜き出し、**初めと終わりの三字**を書け。……答の番号【7】

㈡ 会話文中の [B] に入る最も適当な表現を、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……答の番号【8】

(ア) 多くの歌枕を巡った事実を正確に記録すること
(イ) 歌枕について不明な点を明らかにすること
(ウ) 豊かな表現を追求するために、旅に出ること
(エ) 俳句に地方の名所や旧跡を詠み込むこと

㈢ 会話文中の [C] に入る適当な表現を、本文の内容をふまえ、**何を何に**投影させたのかを明らかにして、**十五字以上、二十字以内**で書け。……答の番号【9】

下書き用

20
15

(8) 本文の構成を説明した文として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……答の番号【10】

(ア) [1]・[2] 段落で問題を提起し、[3]～[6] 段落で例をいくつも示して読者にイメージをもたせ、[7]～[9] 段落で結論を導き出すという構成になっている。
(イ) [1]・[2] 段落は序論であり、[3]～[6] 段落でその具体例を示し、[7]～[9] 段落で新たな問題点を投げかけて締めくくるという構成になっている。
(ウ) [1]・[2] 段落で話題とそれに対する見方を提示し、[3]～[8] 段落で具体例を示し、[9] 段落で新たな見方を示してまとめるという構成になっている。
(エ) [1]・[2] 段落は主張を含む序論であり、[3]～[8] 段落で具体例を示し、[9] 段落でもう一度主張を述べるという構成になっている。

【裏へつづく】

二　次の文章を読み、問い（1）～（8）に答えよ。（20点）

（1～8は、各段落の番号を示したものである。）

1　他者の眼に自分がいかに映るか、ひいては他者にとって自分がいかなる存在かという問題は、自己の定義の内容そのものにも深く関わっている。私たちは日々、さまざまな他者との関わりの中で、他者ないし社会にとっての自己の位置づけに思いを馳せることを通じて、自己の姿を捉え、その定義をかたちづくっている。

2　他者との関係性に応じた自己のありようについての心理学の概念に「a文化的自己観」がある。これは「ある文化において歴史的に共有されている自己についての前提」である。この理論において提起される自己観の*モデルには、「相互独立的自己観」と「相互協調的自己観」という二つの異なった型がある。

3　相互独立的自己観とは、自己を、他者や周囲の物事から区別され、切り離された実体として捉える考え方である。したがって、自己は、周囲の状況とは独立にある主体の持つさまざまな属性、たとえば能力・才能・性格特性などによって定義される。他方、相互協調的自己観における自己とは、他者や周囲の物事と結びついて社会*ユニットの構成要素となるような、本質的に関係志向的な実体である。したがって、自己の定義は、ある特定の状況や他者の性質に依存する。ここでは、人間関係そのもの、あるいはそこにある関係性の中で意味づけられている自分の属性が自己の中心的定義となる。

4　二つの自己観の違いは、たとえば「二〇答法」と呼ばれるシンプルなテストを通じて、b具体的に見ることができる。これは、人々に「私は……」で始まる二〇の文を自由に作ってもらうものである。国際比較調査の結果、アメリカ人を中心とする欧米文化に生きる個人の場合、性格（「私は明るい」）や才能（「私は〇〇が得意だ」）など、比較的c抽象的で周囲の状況に左右されない自己の内的属性について多く記述する傾向が見られた。一方、日本人をはじめとする東アジアの文化に生きる個人の場合には、自らの所属（「私は〇〇大学の学生だ」）や役割（「私は〇〇部長だ」）、さらには、特定の状況における自分の特徴（「私は家では〇〇だ」）など、□を多く記述する傾向があった。これらのd実ショウデータを引きながら、*マーカスと北山は、欧米文化においては相互独立的自己観が優勢であり、日本や中国、韓国といった東アジアの文化においては相互協調的自己観が優勢であると論じた。彼らの主張はその後、心理学のみならず多くの社会科学における*比較文化研究に大きな影響を与えた。

【下へつづく】

5　言うまでもなく、こうした*二分法的な議論には限界もある。しかし、本章での議論において重要なのは、文化的自己観のモデルが「他者との関係のあり方が自己を規定する」との理論的*視座に立っている、ということである。身近な重要他者との人間関係そのものを自己定義の*源泉とする相互協調的自己観についてはもちろんのこと、他者や特定の状況から切り離された自己定義を志向する相互独立的自己観もまた、他者との（互いに自律的な）関係性に根ざしたモデルであるという点では同じである。すなわち、文化的自己観は、自己が関係性の中にしか存在し得ないという前提の上に構築された、ひとつの理論モデルである。

6　実際のところ、東西いずれの文化に属する個人であっても、e均質な「一枚岩」のような関係性に取り囲まれていることなどあり得ない。家族との関係、職場での関係等々、人は誰しも多彩な関係性のもとに多層的に身を置いている。しかも個々の関係は決して安定的なものではなく、常に流動的、可変的なものである。たとえば、ある家族の関係性は、一〇年前も今もまったく同じというわけではない。親密だった母子が何かのできごとをきっかけに疎遠になってしまうこともあるだろう。いかなる人間関係であっても、昨日よりは今日、今日よりは明日と、日々、前の日にはなかった新たな経験を共有していくことによって、人々は常にその関係性をf少しずつ塗り替えている。その意味で、自己と他者との関係性は、特定の一瞬を切り取って眺めている限りにおいては、あくまで一時的な*ミニマル・モデルにすぎない。

7　しかし、その一方で、どのような対人関係においても、今日の関係性が、昨日までの関係性の歴史の上に築かれているということには、疑う余地がないだろう。ある関係性において共有されている意味の体系は、暗黙のうちに、そこに属する個々人の認知や行動をその体系に即したものへと方向づける。また逆に、個々人が特定の意味の体系に沿った認知や感情を生起させたり、行為のやり取りを繰り返したりすることによって、その関係性は*予言の自己成就的に守られ、再生産されていく。たとえば、厚い信頼関係を築いている友人どうしは、迷わずにお互いの思いを開示し合う。そしてまた、互いに隠しごとを持たず自らを開示し合うからこそ、ますます彼らの信頼関係は、揺るぎないものになっていく。

8　このように、他者との間に結ばれる関係性と、その担い手たる個々人の自己のありようとは、相互構成的な関係にある。自己の概念は、既存の関係性から影響を受けてかたちづくられる一方で、逆に、そのような自己のありようが、翻って、関係性の形成と維持に影響を与えてもいるのである。人は、自らを取り巻く他者との多層的な関係性と、その蓄積の中で、互いの内に相手の姿を映し出しつ

つ、絶え間なく自己を更新し続けているといえるだろう。

（村本由紀子「人文知3　境界と交流」による……一部省略がある）

注

＊モデル…型。　＊ユニット…全体を構成している、一つ一つの単位。
＊マーカスと北山…いずれも心理学者。
＊比較文化研究…異なる文化をさまざまな視点で比較する研究分野。
＊二分法…全体を二つに区分してとらえる考え方。　＊視座…物事を見る立場。
＊源泉…物事の生じてくるもと。　＊ミニマル…必要最小限。
＊予言の自己成就…人は、たとえ根拠のない予言であっても、予言通りの結果となるような行動をとる傾向があるという、心理学における概念。

（1） 次の文章は、本文中の a文化的自己観 について述べたものである。これを読み、後の問い㈠・㈡に答えよ。

> 自己の捉え方についての前提は、それぞれの文化において A されており、その前提を文化的自己観という。国際比較調査によると、欧米文化では自己を B 実体として定義する型の自己観が優勢である。

㈠ 文章中の A に入る最も適当な表現を、本文中の 1 ～ 3 段落から**六字**で抜き出して書け。……**答の番号【11】**

㈡ 文章中の B に入る最も適当な表現を、本文中の 1 ～ 3 段落から**十二字**で抜き出して書け。……**答の番号【12】**

（2） 本文中の b具体 と c抽象 のような関係にある語を何というか、最も適当なものを、次の**Ⅰ群**（ア）～（ウ）から一つ選べ。また、b具体 と c抽象 と同じ関係にある語の組み合わせとして適当なものを、後の**Ⅱ群**（カ）～（サ）から**二つ**選べ。……**答の番号【13】**

Ⅰ群
（ア）多義語　（イ）類義語　（ウ）対義語

Ⅱ群
（カ）巨大―精巧　（キ）理論―実践　（ク）友人―知人
（ケ）刹那―瞬間　（コ）肯定―否定　（サ）冷静―猛烈

（3） 本文中の □ に入る最も適当な表現を、下段の（ア）～（エ）から一つ選べ。……**答の番号【14】**

（ア）所属や役割などの周囲とは関わりのない属性で定義される自己の特性
（イ）特定の状況や人間関係について他者に配慮した謙虚な評価
（ウ）能力や才能などについて所属や役割などを自覚した前向きな評価
（エ）他者との関係や社会的状況の中で定義される自己の特性

（4） 本文中の d実ショウ の片仮名の部分を**漢字**に直し、**楷書**で書け。……**答の番号【15】**

（5） 本文中の e均質な「一枚岩」のような関係性に取り囲まれていること についての説明として最も適当なものを、次の（ア）～（エ）から一つ選べ。……**答の番号【16】**

（ア）自分の周囲にいるすべての他者と、強固で変わることのない等しい関係性を築いており、そのような安定した関係性の中に身を置いて日々生活をしているということ。
（イ）自分が属している強い結束を保った集団それぞれにおいて、不変的で固定的な関係性を他者一人一人と作り上げており、そのような個人的な心のつながりの中で生活しているということ。
（ウ）人と人との関係性を、どんな状況においても変化しないものとして捉え、ある特定の一瞬を切り取る形で理解し、そのような固定的な認識の中で生活しているということ。
（エ）自分が成員である集団それぞれにおいて、すべての他者と平等に関わりを持つことによって強い信頼感を保ち、そのような安定的な関係性の相互作用の中で日々生活しているということ。

（6） 本文中の f少しずつ塗り替えている を単語に分け、次の〈例〉にならってそれぞれの語の品詞を示したものとして最も適当なものを、後の（ア）～（エ）から一つ選べ。……**答の番号【17】**

〈例〉日は昇る　・・・（答）名詞＋助詞＋動詞

（ア）副詞＋動詞＋助動詞
（イ）副詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞
（ウ）形容詞＋接続詞＋動詞＋助動詞
（エ）形容詞＋助詞＋動詞＋動詞＋助詞＋動詞

【裏へつづく】

(7) 次の会話文は、花子さんと一郎さんが本文を学習した後、本文について話し合ったものの一部である。これを読み、後の問い㈠・㈡に答えよ。

花子　本文は「自己をどのように捉えるか」ということについて論じた文章だね。

一郎　うん、自分が属する文化によって、「自己をどのように捉えるか」ということには一定の傾向があると述べられているね。本文では傾向の異なる二つの自己観が紹介されているよ。

花子　筆者は、二つの自己観はどちらも「［　X　］」という考えを土台として組み立てられているという共通性に触れたうえで、他者との関係性と自己のありようは「相互構成的」だと述べているけれど、どういうことかな。

一郎　本文をよく読むと、「相互構成的」というのは、他者との関係性に［　Y　］され、また一方で、逆に、［　Z　］に影響を受けて形成、維持され、私たちを取り巻いているということを表現していると考えられるね。

花子　自己というものは、他者と相互に影響を与え合いながら、常に更新され続けているということなんだね。

㈠　会話文中の［　X　］に入る最も適当な表現を、本文中から**十七字**で抜き出し、**初めと終わりの三字**を書け。……**答の番号【18】**

㈡　会話文中の［　Y　］・［　Z　］に入る適当な表現を、本文の内容をふまえて、それぞれ［　Y　］は**十二字以上、十五字以内**で、［　Z　］は**十五字以上、二十字以内**で書け。……**答の番号【19】**

下書き用

Y　15　12

Z　15　20

(8) 本文は、内容からみて前半と後半に分けることができる。後半が始まる段落として最も適当なものを、次の**(ア)**～**(エ)**から一つ選べ。……**答の番号【20】**

(ア) 3 段落　**(イ)** 4 段落　**(ウ)** 6 段落　**(エ)** 7 段落

三　次の文章は、「徒然草（つれづれぐさ）」の一節である。**注**を参考にしてこれを読み、問い(1)～(3)に答えよ。(12点)

この部分は著作権の問題により公表できません。

（「新編日本古典文学全集」による）

注
＊筑紫…九州。
＊土大根…大根（だいこん）。
＊兵…武士。
＊年来…長年。
＊押領使…暴動の鎮圧や盗賊の逮捕などを行った役人。
＊館…屋敷。
＊追ひかへしてげり…撃退してしまった。

(1) 本文中の a ありけるが の主語である人物と、同じ人物が主語であるものは、本文中の二重傍線部（═══）のうちどれか、最も適当なものを、次の**(ア)**～**(エ)**から一つ選べ。……**答の番号【21】**

(ア) なりぬ　**(イ)** 囲み攻めけるに　**(ウ)** 戦ひて　**(エ)** 覚えて

(2) 本文中の b ここにものし給ふとも見ぬ人々 の解釈として最も適当なものを、次の**(ア)**～**(エ)**から一つ選べ。……**答の番号【22】**

(ア) この屋敷にいらっしゃるとも思われない人々
(イ) この屋敷に襲いかかりなさるとも思われない人々
(ウ) この屋敷で生まれなさったとも思われない人々
(エ) この屋敷で食べなさったとも思われない人々

（3）

加奈さんのクラスでは、本文を学習した後、本文に関する発表を班ごとに行うことになった。次の会話文は、加奈さんの班で話し合ったものの一部である。これを読み、後の問い㈠～㈣に答えよ。

加奈　この文章は、授業で習った「徒然草」の一節なんだよね。「徒然草」の冒頭は、「つれづれなるままに、日暮らし、硯（すずり）に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。」だったかな。作者の鋭いものの見方がこの作品の魅力だったよね。

健太　押領使は、大根が「 A 」であると信じて、「朝な朝な」食べていたと書かれているね。作者は、押領使がそのようにしていたから、敵に襲われたとき、武士となって現れた B と捉えているんだね。

加奈　押領使が大根を食べていたのは、健康に気を遣っていたからなんだね。研究によれば、この時代は平均寿命があまり高くなかったらしいよ。そんな社会状況も、「徒然草」の作者のものの見方の背景にあるのかな。

京子　私たちの班では、古典の書かれた時代背景について考えて発表することにしようよ。奈良時代から江戸時代まで、各時代の日本人の平均寿命を調べて、 C を分かりやすく表せるよう、グラフにまとめたらいいね。

健太　それなら、 D を用いるのが適切だね。

加奈　平均寿命だけではなくて、歴史上のできごとも併せて示せば、より多面的にその時代の様子を考えることができるね。

京子　なるほど。でも、情報が多くなると、分かりづらくならないかな。

太郎　情報を加えると多面的に考えることができるようになるけれど、注目させたいところがどこか分かりづらくなるということだね。それなら、とりあげるできごとを主なものだけにすればいいんじゃないかな。

㈠　会話文中の ものぐるほしけれ のように、「係り結び」によって結びの部分が変化している文として最も適当なものを、下段の（ア）～（エ）から一つ選べ。……答の番号【23】

（ア）　あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
（イ）　あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩（かち）より詣（まう）でけり。
（ウ）　月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。
（エ）　春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。

㈡　会話文中の A に入る最も適当な語を、本文中から**漢字一字**で抜き出して書け。……答の番号【24】

㈢　会話文中の B に入る適当な表現を、本文の内容をふまえ、「**押領使**」という語を用いて、**九字以上、十二字以内**で書け。……答の番号【25】

下書き用

9

12

㈣　会話文中の C ・ D に入る最も適当な表現を、 C は次のⅠ群（ア）・（イ）から、 D はⅡ群（カ）・（キ）から一つ選べ。また、会話文中の点線（┆┆）で囲まれた太郎さんの発言が、発表についての話し合いにおいて果たしている役割について述べた文として、最も適当なものを、後のⅢ群（サ）～（セ）から一つ選べ。……答の番号【26】

Ⅰ群
（ア）　時代の推移による数値の変化
（イ）　全数値の合計に対する各時代ごとの数値の割合

Ⅱ群
（カ）　折れ線グラフ　（キ）　円グラフ

Ⅲ群
（サ）　それまでの意見を否定し、新たな視点から考えた案を提示する役割。
（シ）　それまでの意見を整理し、議論の流れを受けた案を提示する役割。
（ス）　それまでの意見を要約し、どちらか一方の意見への賛同を表明する役割。
（セ）　それまでの意見を疑問視し、独創的で優れた意見を表明する役割。

【国語おわり】

共通学力検査 国語答案用紙

共通学力検査

国語

受付番号

得点

問題番号	答の番号	答の欄	採点欄
一 (1)	【1】	Ⅰ アイウ Ⅱ カキクケコサ	【1】
一 (2)	【2】	アイウエ	【2】
一 (3)	【3】	b む d	【3】
一 (4)	【4】	アイウエ	【4】
一 (5)	【5】	アイウエ	【5】
一 (6)	【6】	アイウエ	【6】
一 (7) ㊀	【7】	∫	【7】
一 (7) ㊁	【8】	アイウエ	【8】
一 (7) ㊂	【9】	20 15	【9】
一 (8)	【10】	アイウエ	【10】
二 (1) ㊀	【11】		【11】
二 (1) ㊁	【12】		【12】
二 (2)	【13】	Ⅰ アイウ Ⅱ カキクケコサ	【13】
二 (3)	【14】	アイウエ	【14】
二 (4)	【15】	実	【15】
二 (5)	【16】	アイウエ	【16】
二 (6)	【17】	アイウエ	【17】
二 (7) ㊀	【18】	∫	【18】
二 (7) ㊁	【19】	Z 20 15 Y 12 15 されまた一方で、逆に、	【19】
二 (8)	【20】	アイウエ	【20】
三 (1)	【21】	アイウエ	【21】
三 (2)	【22】	アイウエ	【22】
三 (3) ㊀	【23】	アイウエ	【23】
三 (3) ㊁	【24】		【24】
三 (3) ㊂	【25】	9 12	【25】
三 (3) ㊃	【26】	Ⅰ アイ Ⅱ カキ Ⅲ サシスセ	【26】

共通学力検査 国語 正答表

問題番号	答の番号	答の欄	備考欄	配点
一 (1)	【1】	Ⅰ ㋑ Ⅱ ㋕ ㋚	完全解答	2
一 (2)	【2】	㋐		2
一 (3)	【3】	b のぞむ d しんし		2（各1）
一 (4)	【4】	㋓		2
一 (5)	【5】	㋑		1
一 (6)	【6】	㋒		2
一 (7) 一	【7】	実際の～がある		2
一 (7) 二	【8】	㋐		1
一 (7) 三	【9】	(例) 風雅を求める心の真実を主人公の上に		2
一 (8)	【10】	㋓		2
二 (1) 一	【11】	歴史的に共有		1
二 (1) 二	【12】	周囲の状況とは独立にある		1
二 (2)	【13】	Ⅰ ㋒ Ⅱ ㋖ ㋘	完全解答	2
二 (3)	【14】	㋓		2
二 (4)	【15】	実証		2
二 (5)	【16】	㋐		2
二 (6)	【17】	㋑		2
二 (7) 一	【18】	自己が～得ない		2
二 (7) 二	【19】	(例) Y 影響を受けて自己の概念が形成され、また一方で、逆に、Z 他者との関係性がそのようなものありよう		4
二 (8)	【20】	㋒		2
三 (1)	【21】	㋓		2
三 (2)	【22】	㋐		2
三 (3) 一	【23】	㋓		2
三 (3) 二	【24】	薬		1
三 (3) 三	【25】	(例) 大根が押領使を守った		2
三 (3) 四	【26】	Ⅰ ㋐ Ⅱ ㋕ Ⅲ ㋚	ア・カは完全解答	3（1・2）